

はこぎぞき

箱崎環境対策協議会

創刊号

橋日本区中央
8の34町崎箱
8667-5667 話

箱崎町の町会員の皆様、あけましておめでとうございます。

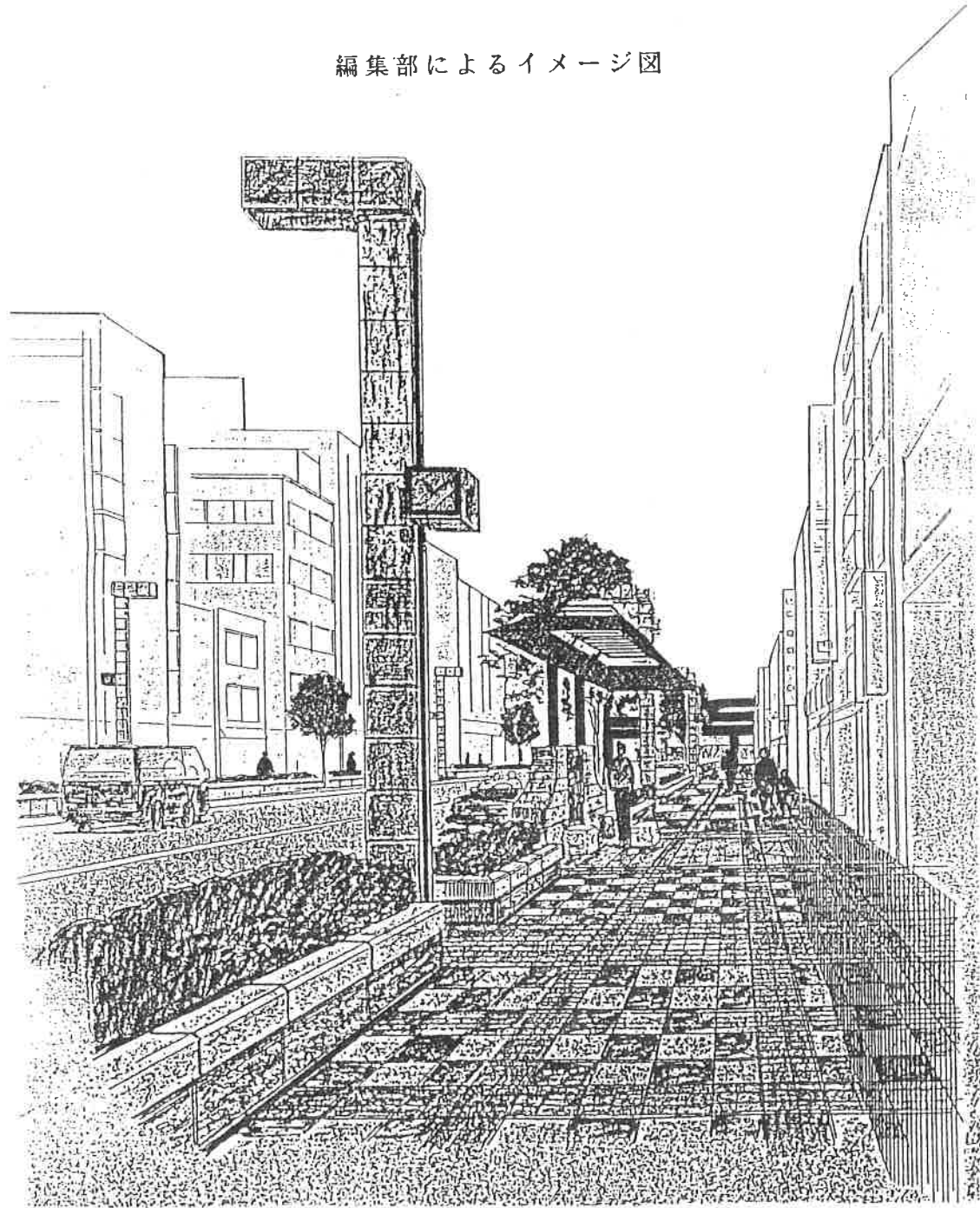
昭和六十三年の新春を迎え、皆様のご健勝とご繁栄を心から御祈り申し上げます。幸い箱崎環境対策協議会も着実に進展しておりますことは、町会会員の皆様のご理解とご協力のたまものと心から御礼申し上げます。しかしながら町会を取り巻く社会経済情勢は依然として厳しいものがあり、予断を許さない状況にあります。箱崎環境対策協議会の機能を十分に発揮しながら、行政機関と協力して「魅力ある町づくり」の実現のため全力を傾注する所存でございます。住民の皆様のご理解と一層のご支援をお願い申し上げます。

箱崎環境対策協議会

会長 寺嶋信一
副会長 宝田陽一
副会長 川田利雄

我が町「はこぎぞき」機関紙発行に際し、一言ご挨拶を申し上げます。現在の箱崎町（箱北、箱二、三、箱四）各町会をご覧の通り、不規則な町並みの様相を呈しております。

編集部によるイメージ図



水天宮前通りより首都高速道路（シティーターミナル下）をのぞむ。

箱崎環境対策協議会の発足も、本紙に於てその経緯を述べてありますので、何卒ご熟読頂き、私達の趣旨をご理解頂きたいと思っております。編集委員一同が、手造りの温かい且、活力ある機関紙として発行すべく、努力致し第一号を発行する事となりました。

町会員各位及び、新しく箱崎町に居住されました方々にも、充分ご理解を頂きたいと思っております。

新しい居住者の方々とは、以前から居住されて居られる方々とは、とかく交流が少なく他人のような違和感もあります。

編集委員もそのへんの壁を取り除くべく素人なりの紙面ですが熱意をもって一味違った記事で町の活性化を皆様にアッピールする努力を買って頂き、今後のご協力を要望致したいと思っております。

町を愛し、環境をより良くし、住み良い町にする事は住んでいる皆様の努力に、外ならない問題と思っております。

この機関紙発行を機会に、ご遠慮無くご意見、ご希望、苦言を提言して頂き、この機関紙が精一杯の橋渡しの一助となれば幸いです。創刊号を機に今後随時 二号、三号と発行して頂く様、役員一同推進して行く所存でございますので皆様の絶大なるご理解、ご援助を御願ひする次第でございます。

編集委員一同

大祭がとりもつた箱崎三町会の団結

昭和五十四年十月に完成した高速道路九号線に依り、夕日の映えた土州橋(現在ターミナル場所)は埋まり、箱崎町は二分劃されてしまいました。

その分割により箱崎町の環境悪化に拍車を掛けた事実は否定できません。隅田川に面した下町情緒豊かな人情と、町並は時代の波に押し流され、オフィスビルが建つ様になり箱崎の人情も家並も隠されてしまったのが現状です。

そんな箱崎の片隅に、昭和五十七年頃より地下鉄半蔵門線の延長計画が発表され、箱崎地区に「地下鉄出入口を」との要望書を中央区に提出致しました。

この地下鉄出入口問題から端を発し、町内に沢山の問題が提起されて来ました。

町内のなかで占有面積の広い三井倉庫跡地、郵船倉庫跡地の再開発、土地高騰により、古い住民の減少と、新しいマンションの住民増加との関わり合い、大川端作戦による町の変化等、沢山の問題を抱える現状となりました。

昭和六十一年深川八幡宮大祭を契機に、町の将来を真剣に考える必然性から、三町会連合の機運が芽生えて来ました。

三ヶ町合同の連合渡御、子供神輿、山車、盆踊り大会等の運営、実行により三ヶ町合同の団結は輝やかしいページとなりました。

相前後致しますが、昭和六十一年四月に初めて環境を良くするための会が三ヶ町合同で開催、これが現在の箱崎環境対策協議会の組織団体としての発足です。

何分にも当初はスムーズに事が運ばず住民の方々にも趣旨徹底出来ず、協議会の認識も薄かった事と思えます。

時には右往左往して検討事項もまとまらない事態も多々ありました。

しかし会合を重ね、検討して行く内に只単に地下鉄出入口の問題のみに固執せず、今後の箱崎の町をもうすこし広い視野にたつて問題を考え検討する事が急務な事ではなからうか、自分達の住む町を、少しでも住み良い環境にしていくために「箱崎環境対策協議会」は住民の方々の自発的な問題意識からこうして生まれて来たと思えます。

行政機関との太いパイプ役割を果たす

昭和六十二年四月区議選、区長選に入り区とのコンタクトも中断し、空白の数ヶ月が過ぎました。

同年七月には、新区長矢田美英氏、建築部長小川氏、地域整備課長吉田氏、三浦氏、区よりのコンサルタント参事落合氏の出席を頂き現在の箱崎町の抱えている諸問題、今後の方針等を質疑応答する会合を開催しましたが、時間的制約もあつた関係上、充分な結果は得られませんでした。少なくとも区長は勿論の事、出席者諸氏には箱崎の現況を顔合せのみに留まらず、強い印象を植付た事は大きな成果であつたと思えます。

この協議会に対し、区議会議員の山森静一

氏の力強い助言に依り、区としての助成金第一号としてこの協議会に予算化された事実は、非常に責任のある協議会として運営しているかなければならないと自覚しております。

今後の協議会の運営もまさに正念場を迎える事となるだけに、この機刊紙「はこざき」発刊も一つの実行の現れと受け止めて頂きましたと思えます。

昭和六十二年九月に協議会内に役員会を設立し規約を定め、委員も選出致し、書類を区の関係機関に提出致しました。

この結果役員会に於いて検討課題を絞つた上、一、二、の問題を協議会で改めて審議決定する組織化した機構としました。

十一月に後述してあります人形町モールの街の延長を提案、蛸殻町四町会会長に趣旨説明を致し快く協力して頂く事となりました事は改めて近隣町会の深いご理解の賜と感謝致している次第です。

十一月六日蛸殻町三町会長 三之部連合町会長の立見栄次郎氏、箱崎三町会会長、大木事務局員の諸氏が山森区議会議員の仲介の労にて区の庁議室において、人形町モールの街を箱崎町迄延長して頂くべく要望書を立見日本橋三之部連合町会長より矢田区長に手渡されました。区側より助役、総務、企画、土木、建築の各部長が同席され、確かな感触を得た事を書き添えます。

この様に一つ一つ着実に事を成就させるには、どうしても区議会の方の力が必要です。

環境対策協議会は皆様と行政機関とのパイプ役として懸命に役割を果たすべく頑張っております。どうか御理解ください。

先ずは主幹道路の美化緑化

現在までの会合で「箱崎環境対策協議会」としての区に對する要望を集約すると、

- 一、人形町モールの街の延長を水天宮一蛸殻町一箱崎町へと、町にふさわしい歩道、街路樹、街路灯を設け、特に薄暗いターミナル下を世界の表玄関にマッチした明るい近代的な装いにする。
- 二、隅田川河岸「大川端作戦と合せ」に、水上バス乗降場及び、モダン化した憩いの場を大々に取入れ、人の流れを寸断することのない、又箱崎地区に人の流れを導入する様な川岸とする事。
- 三、ほかの地区に設立されている区民館はあつるが箱崎地区としては車公害、空気汚染、騒音のみが残されております。

この際、御年寄の方が何時でも利用できる場所、そして冠婚葬祭にも使える場所として公民館的な建物をなんらかの形で実現してもらいたい。

又、今後ますます増えると思われるマンションにお住まいの方々と昔からの住民である町会員との意志の疎通等、様々な問題を提起して頂き、近代的な情報都市と、伝統ある下町情緒を併せ持った「我が町箱崎」を実現すべく、全力で取り組んで行く覚悟で居りますのでご理解、ご協力を御願ひ申し上げます。

はこぎびま

箱崎環境対策協議会

第2号

中央区日本橋
箱崎町34の8
電話 667-5667

☆協議会発足後初の総会開かれる

去る五月二十四日夕三時、箱崎環境対策協議会が初開催されました。創刊号にて述べた通り、箱崎環境対策協議会は役員会、実行委員会を基本として規約化され、着実に運営されてまいりました。この間四月四日地元四企業にこの環境対策協議会の理事として新規に加入して下さる様お願い申し上げた所、快くご承認頂きました。今後は町会員と企業が一体となり益々充実した協議会が運営される事と思っております。改めて皆様の御協力に感謝申し上げます。改めて総会にもこれら企業担当の方々のお出席を頂き無事終了致しました事を申し添えておきます。

総会次第は次の通りです。

- 一、開会の挨拶
- 二、議長選出
- 三、議長挨拶
- 四、議事
 - 一、事業報告
 - 二、監査報告
- 五、昭和六十三年事業計画案
 - 一、シンボルロード計画についての対応
 - 一、江東区に於ける水上バス試乗見学
 - 一、三井オフィスビル水際堤防の見学
 - 一、ターミナル下、地下鉄駅構内見学
- 六、閉会の辞

以上にて総会終了

第二部、懇親会を別室にて開催し、華かな懇親会場に矢田区長をお招きして山森委員からの御紹介に引き続き区長の御挨拶を頂きました。六十二年十一月区役所の庁議室に於て、道路整備計画、緑地化の要望書を皆様から頂いて居り区長としてもこの箱崎地区の皆様及び水天宮一軒殿町周辺の代表の方々の御熱心な活動に敬意を表して居ります。

このシンボルロード計画に於て区として調査費も予算化され官民一体となって皆様の御意向に添べく努力してまいります。どうかこの協議会をパイプ役として町会員の方々の御要望をどしどし役所の方にもお寄せされる様お願い申し上げます。今後の計画が成功する様祈念致しまして本日の御挨拶にかえさせて頂きます。

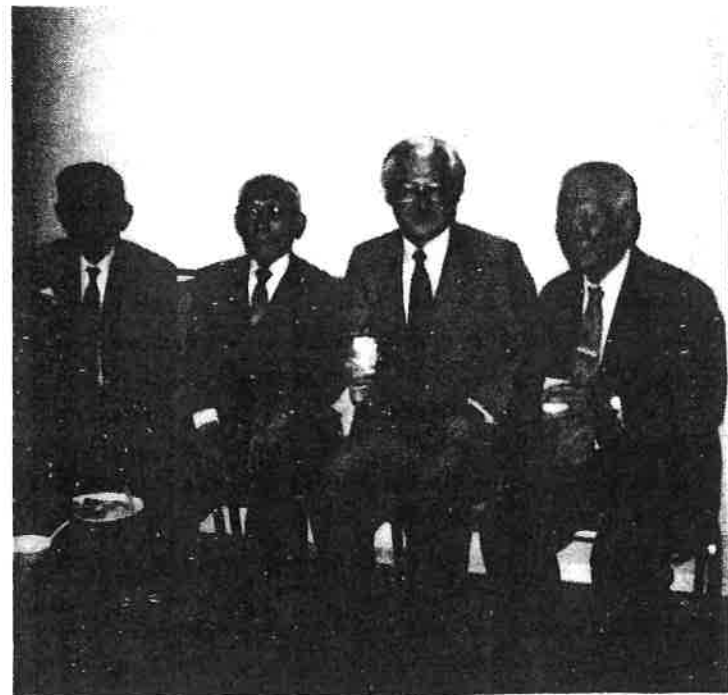
挨拶に引き続いて矢田区長に乾杯の音頭をお願いし拍手にて懇親会に移る。

会場にて区長は御多忙中にも拘らず、今後の計画案等について各委員と精力的に質疑応答されました。

初の総会に矢田区長の出席を頂いた事は今後の協議会の運営に大いに励みとなりました。矢田区長離席の後、青木委員の大げにて無事懇親会を終了した次第です。

新規加入企業名(順不同)

- 一、 榎東京シティエアーターミナル
- 一、 三井倉庫オフィスビルディング
- 一、 東京シティターミナル内郵便局
- 一、 榎ロイヤルパークホテル



総会後の懇親会々場にて

☆箱崎連合町会納涼大会日時決まる

今年も、恒例になりました富岡八幡宮蔭祭と盆踊りが行われることになりました。町全体が、大きく変わろうとしている時、地元のみならず、又他の地域より我がまち箱崎に越してこられた新しい住民のみならず、老若男女、大勢の皆様が楽しく参加できる催し物を用意しております。

昼は模擬店、夜は盆踊りと、地域のコミュニケーションの場として、町の活性化を図りながら住みよい町づくり、皆様方の参加を待ち致しております。

日時 八月十三日(土)十四日(日)

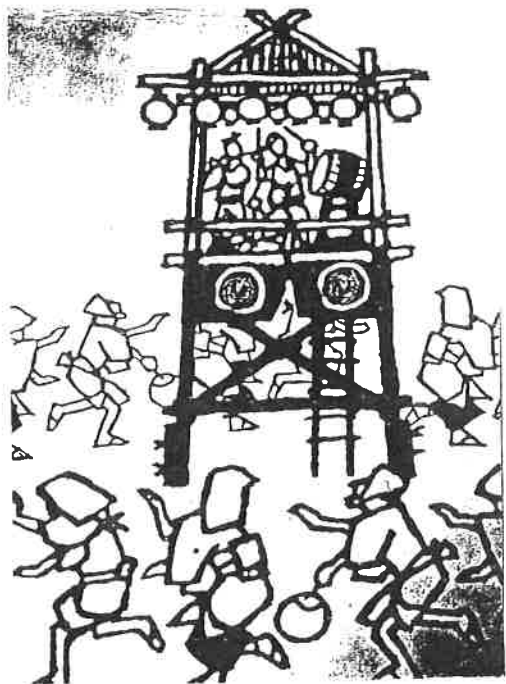
場所 箱崎公園及び日本橋高校々庭

* 盆踊り 八月十三、十四日(校庭にて) 午後六時より九時三十分まで

* 子供フェスティバル 八月十四日(箱崎公園にて) 午後一時より四時まで

やきそば、金魚すくい、かき氷、電子銃、ミニゴルフ、フランクフルト、水飴

詳細は、後日各町会より回覧いたします。



☆ふるさと箱崎

—シンボルロード整備計画—

『箱崎のまち』が、動きはじめた。時代の急速な変化で、川が埋められ、橋が撤去されたのは、遠い昔の事のように思える。現在、マンション、オフィスビルが軒並みに建設、計画され、それに伴ない新しい住民もかなり増えてきている。近々、地下鉄も開通する予定である。そのような状況下で、地下鉄出入口問題を契機として、箱崎住民は、三ヶ町の役員を中心に我が町の将来を語り合うべく、まちづくりの会を結成した。それが、言うまでもない『箱崎環境対策協議会』である。協議会において何度か何度も会合を持った。そしてまちづくりを積極的に推進する中央区行政に対し、地域として一つの方向を示した。

協議会の話し合いでは、箱崎会館づくり、箱崎公園の整備、道路の整備、公害の問題など、将来を考えて行政に対する要望として、いろいろと話し合われた。しかし、現在の箱崎は、陸の孤島になつてゐる現況を考えると、シルクロードではないが、『文化は道からは、まず道を整備することではないか』と考へた。言い換えると道を整備し、動脈として血を通わせるといふ考へ方である。その方向を協議会全員の賛意により決議し、隣接の蛸殻町の四つの町会に協力、同調を求め、昨年、中央区長に要望書を提出した。その住民の根強い運動が今年の区の予算に計上された『シンボルロード整備計画』である。

区では『シンボルロード整備計画』という街路整備事業を次のように位置づけている。
 (事業の目的)

ゆとりと潤いのある都市環境、生活環境の形成を求め、区民の声が高まる中で、主要な公共空間である道路空間についても時代のニーズにふさわしい親しみと潤いある環境の整備が強く求められている。

このような背景から都市の顔となる街路についてこれにふさわしい街路創りをめざすもので、地域の特性を生かした整備を行うこと、区民の憩いの場、コミュニケーションの場、祭りの場など、その地域のシンボルとなる空間の形成を図る事を目的とする。そのためには、舗装の改良だけでなく、並木の充実、照明灯のデザイン化、架空線の地下、コミュニティスペースの確保等が図られる道路構造とする必要がある。以上のように、中央区のモデルケースとして、今年調査をされ、来年度から具体的に整備されていくことになっている。求められ、近視眼的になりやすい中、このような地域の地味な運動は、将来に向かって入口論で正しい選択であったと言える。そして今後の限らない発展の出発点に立ったと認識される。そして最後に我々が追い求めるものは、『住んで良かった』、『ふるさと箱崎』である。『箱崎のまち』は、動き続ける。



矢田区長に要望書をしてわたす



中央区役所三階庁議室にて

編集部だより

前回の創刊号に対して沢山の方々から、あたたかい励ましのお言葉から、誠に御意見、いろいろとお聞かせ頂きました。私達素人編集部にとっては全く有り難い反響として受け止め、今後の糧とさせて頂きます。誠にありがとうございます。

今回は『見やすく、わかり安く』をモットーに編集した積りですが、如何でしょうか。御意見の中に、新しく箱崎に引越して来られた方の希望として、次の機会にこの町の史跡等も紹介してほしい、と言う意見がありました。私達の町箱崎は、その昔は大川の三角州だった様ですが、江戸の発展と共に大きな庭園のある大名屋敷や豪商の蔵屋敷であった時代もある様です。日本銀行の発祥地も箱崎なんですよ。今住んでいる家の下が大名屋敷の蔵の跡で大判、小判がザックザック、かな。編集部は昔の事が解る資料もありません。是非今回も御意見御感想をドシドシお寄せ下さい。

はこぎま

箱崎環境対策協議会

第 3 号

中央区日本橋
箱崎町 34 の 8
電話 667-5667

☆御挨拶

平成元年は昭和天皇様の御逝去、又内外共重苦しくて大変な一年でありました。今年はずっと明るい年である事を期待して居る今日此の頃です。

そんな時先般、箱崎環境対策協議会の前会長（前箱四町会長寺島氏）のあとを皆様の御推挙により不肖私が御指名を受け恐縮して居ります。

果たしてお役に立てられるか戸惑っております。御承知の通り近年急変しつつある箱崎町そしてこの先益々東京の空の玄関口として、又オフィスの街として地下鉄乗入れと共に予想もつかない程の注目の町となるでしょう。

これから進出された企業、又これから来る々と新しくお店、色々な方々にも御協力頂きつめたいオフィス街で無く一部下町の情緒もこのした調和のとれた町になつたらと、期待している一人です。

それには何と云つても町を知りつくして居る、そして指導力のある皆様のお力が欠かせません。

浅学ではあります皆様とご一緒に考えて私達で出来る事が有りましたら、一つでも二つでも進めて行きたいと思っております。何卒宜しく御支援下さいます様お願い申し上げます。

箱崎環境対策協議会会長

宝田陽一

尚、寺島前会長は永年住みなれた当地を移転されたため、去る二月八日の会合において辞任し、新たに新会長として宝田陽一氏が新任し副会長に、清水総一郎、川田利雄各氏が選出されました。



☆「シンボルロード計画」の一部完成

かねてより計画の人形町モール街を水天宮一丁目〜箱崎町へと延長する道路整備計画が、IBM前において三月末に一部完成した。この計画について区の土木部では次のように説明している。

道路修景整備にあたっては、地元の皆様に多大な御協力を頂き心よりお礼申し上げます。さて、歴史ある箱崎のまちも、水辺や土地の高度利用などの再開発により変容しています。これに伴って当該道路も歩行者や自動車の利用がこれまで以上に増大すると考えられます。また箱崎公園にも面しエアーターミナルにも近く地域の基幹道路として大きな役割を担うこととなります。

したがって、この機会に利用者の安全を確保し楽しく利用していただくために可能な限り歩道を拡幅し、併せてまちの活性化の一助として修景整備を画ろうと計画しました。

この計画内容を下記に紹介します。なお我々のこの道路に対する期待を御理解の上、末永く皆様の道路として愛し利用していただくようお願いいたします。

- 一、工事規模
 - イ、工事費 七千七十九万円
 - ロ、道路延長 約 二百五十九米
 - ハ、総幅員 十五米
- 二、整備内容
 - イ、歩道は幅員を三米から三、五米に拡幅し、インターロッキングによりカラー舗装します。
 - ロ、街路灯はデザイン灯を九基設置します。
 - ニ、自動車の歩道乗上げ防止など安全策としてボラードを二十九基設置します。
 - ホ、街路樹はまんさく科の落葉喬木である楓（フウ）の木を三十三本、その他木の下にカンツバキを二百六十四本植えます。

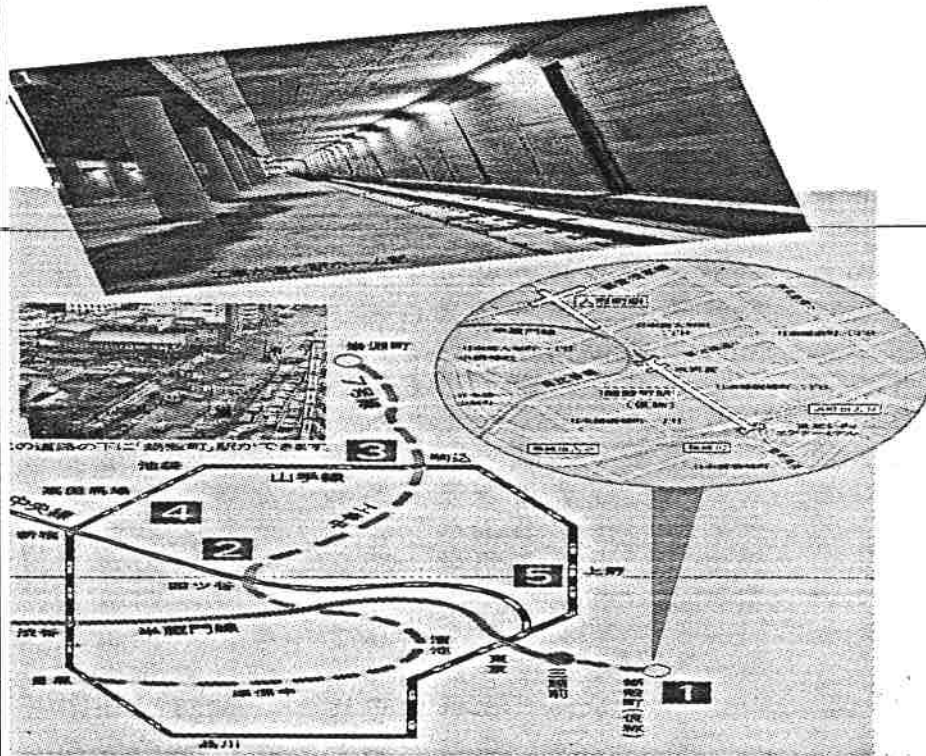
☆十一月開業の地下鉄半蔵門線

営団地下鉄半蔵門線の仮称「蠅殻町」が「はこぎき」に駅名が変更決定した。この件につき営団総裁は次の様な回答書を地域町会に示した。

標記（半蔵門線蠅殻町「仮称」の駅名について）の件につきましては、平成元年九月十八日付をもち「水天宮、エアターミナル前」をとの要望があり、更に別途、中央区長から同趣旨の御要望をうけて以降、慎重な検討を加えて参りました。申すまでもなく、新駅が開設される地域は、御要望にもありません。うに、空の玄関口として国際的にも益々発展が約束されている地域でもありません。また、現時点におきましても、当地域のシテ「エアターミナル、箱崎ランプ等は、交通の要衝として、あるいは大川端の大規模な再開発は、新しい町の顔として広く知られているところであり、もとより水天宮、蠅殻町、人形町といった施設、町も古くから由緒のあるものであり且つ地域に親しまれ、愛着をもたれていることは十分に承知いたしております。営団と致しましては、御要望のありました駅名を含めこれらの事情をふまえ、総合的に、さらには将来を見据えた検討を重ね、当駅名を「箱崎」とさせて頂きたいとの結論に至りました。

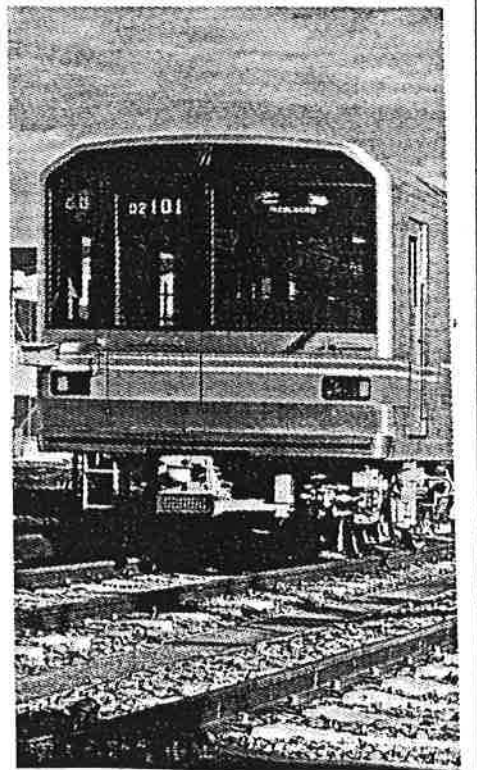
地元の皆様の御要望にお応え出来なく誠に申し訳なく存じますが、営団の意をお汲みとりました。御理解を賜ります様お願い申し上げます。（平成二年二月十九日）

箱崎住民は、駅名が「箱崎」となったことを歓迎している。しかし蠅殻町の人達の心情も理解出来てはばなしで喜べないが、地理不案内な外国の人々が多く利用する箱崎エアターミナルに乗り入れる事でもあり、駅名を「箱崎」とする事は大きな親切になると思う



☆日本IBM環境対策協議会に五千万円

日本IBM社では昨年末地元に対し、地域の発展のため環境整備の費用の一助として、左記の意向で五千万円を当箱崎環境対策協議会へ御寄贈いただきました。



箱崎環境対策協議会
会長 宝田陽一 様

日本IBM株式会社
代表取締役社長 椎名武雄

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。弊社毎々格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、かねてより中央区役所関係者各位のご協力を得て検討を重ねて参りました寄付の件につき、この度貴協議会に対し環境整備の一助として金五千万円を寄贈させて頂いて運びとなりました。

これは弊社の営業部門が貴町内の三井倉庫オフィスビルディングに入居させて頂いておく運びとなりましたことを記念して、僅少ではございますが地元への貢献活動の一端として申し入れさせて頂くものでございます。

貴協議会の趣旨に合致した用途にお使い頂ければ幸にぞんじます。

敬具

尚、この五千万円の使途については、中央区とも相談して箱崎地域の環境整備に最も役立つ方法を検討中である。

編集部だより

三号発行が大変遅くなった事をまずお詫び申し上げます。

「住んで良かった箱崎町」の町づくりを進める当協議会は皆様の御支援により大きく前進してきました。行政も今、住民の声を聞くこととする姿勢にあります。

次回四号では箱崎の環境に大きな影響を持つ郵船倉庫跡地に建設予定の読売新聞ビルを取り上げます。またシンボルロード計画の水天宮一蠅殻町一箱崎への工事も始まります。

今回の高尾稲荷のページは皆様の御希望により特集いたしました。どうぞ皆様の御意見や御感想をどしどしお寄せ下さい。

箱崎には「はこぎき音頭」と言うステキな盆おどりの曲もあるんですよ。今年には深川の輪に踊るあほうで参加しましょう。

☆ほんとうにあつた高尾太夫の首

旧北新堀町の片隅で、昨年完成した高層マンション「リバー&タワー」を見上げる横丁にある小さな祠のお稲荷さん、いつも数十本の赤い幟が立っているが、この稲荷社、高尾稲荷と言つて箱崎地区ではとつても古い歴史を持つ社で、区の指定史跡となつてゐる。毎年「春と共にやつて来る」のキャッチフレーズで行なわれる例大祭、今年も去る三月十日箱北町会のイベントとして盛大にお行なわれ多数の参詣者で賑つた。

この稲荷社、祭神は高尾稲荷大明神と云つて、今より三三〇年ほど前、江戸時代万治のころ仙台藩主伊達綱宗侯に殺された、江戸吉原の遊廓三浦屋の遊女高尾太夫の神霊が祠つてある。

伊達綱宗は、正宗の孫で伝えられる伊達騒動の中心人物であるが、その行状には色々噂があつた。

廓通いに熱中した大名とも云われ、当時、遊女の最高位で傾城ともいわれる高尾太夫を寵愛し身請けしようと、太夫の体重と同じ目方の大金を積んで強引に請け出し我がものにしてやうとしたが、太夫には島田重三郎という恋人がいて、侯の意に従わず、綱宗は強を煮やし怒り狂つて請け出し途中の船中にて高尾を吊るし切りにし、首を跳ねたと伝えられる場所、隅田川の三又あたり（今の中州付近）といわれ、そのとき川の水が真っ赤に染まつたといふ。

その後、宝永年間（一七〇七年）の元旦、隅田川大川端（旧永代橋の西詰）現在の三井オフィスビル横）にあつた幕府の船手屋敷の

船手組次（現在で云う水見警中寮）川岸の下段、船喜平次（現在で云う水見警中寮）川岸の下段、漂着しているのを見つけ、その付近に丁重に葬つた。

このことが、いつの間にか広く人々の噂として伝えられ、これを聞きつけた人々が集まり自然に高尾の首であるとして祠を建て、鎮守として祠つたのが高尾稲荷社の由来となつてゐる。

その当時、歌舞伎芝居に伊達騒動に拘わる狂言が上演され大変な人気を博していたようである、それらが起因して江戸人の共感を得たのではないかとと思われる。

江戸時代の古地図を追つてみると、かなり古い時代の絵地図にも永代橋の西詰にこの稲荷社の所在がハッキリと記されている。

もともと江戸時代には何処に行つてもあるが「伊勢や、医者、稲荷、犬の糞」と云われるほどお稲荷さんは多かつた。

特にお稲荷さんの多かつた。特にお稲荷さんの多かつた。特にお稲荷さんの多かつた。

安藤広重（一八五八没）の画いた錦絵、永代橋の図には橋の西詰（日本橋側で江戸時代は新永代町と呼ばれていた）付近が克明に画かれていて、よく見ると当時の高尾稲荷社の人影が画かれていて興味を引き、繁栄振りが

偲ばれる。

この絵は元三井文庫が所蔵していたもので、現在日比谷図書館に移管されている。そうであるが、昨年竣工した三井オフィスビルの一階奥の中央廊下の横の壁に、複製拡大した大きな陶板に焼付けられ飾つてある。

十五年ほど前、現高尾稲荷社の社屋を改築するにあたり、社殿の下に安置されていた高尾の首が納まつてゐる骨壺を取り出したが、たゞ重なる災害、震災、戦災等による大災にあつたにも拘らず、壺の中の頭蓋骨は無事に保存されてあつたことが確認された。

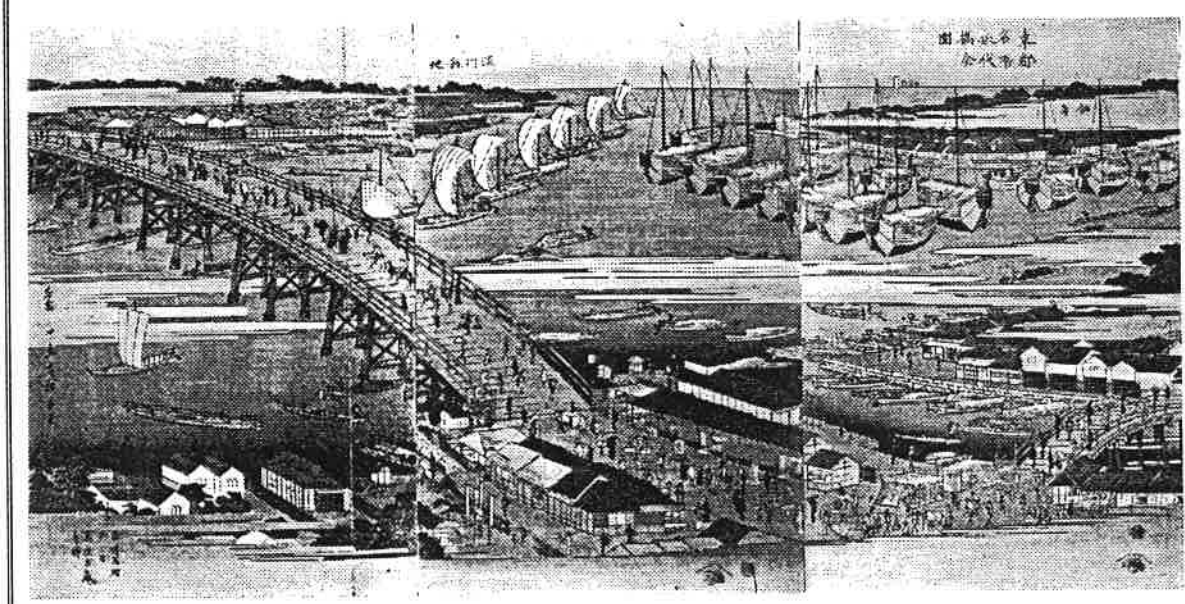
長い年月を経て、高尾の首は白骨化し、やや赤身を帯びて、噂に伝えられていた髪の毛は無く、歯は三本ほど抜け落ちており、前頭部に刀傷らしい傷跡がはつきり見分けられることが出来た。

稲荷社はもと伊勢神宮の下宮の神様で衣食住を司どる神様といわれているが、高尾稲荷のように現物のご神体を会祀した神社の例は無く非常に珍しいと云われている。

高尾稲荷社は昔から高尾太夫の御神徳を崇め花柳界での信仰が厚かつた。

頭に関わる諸々の願ひことに叶うとして昔から懸願にあつたのは、この社より御一枚を借りうけ朝夕高尾稲荷大明神と唱折し、懸願成就ののちは他に御一枚を添えて奉納する習ひが伝わつており、今も遠方よりわざわざ参詣して来て御を奉納している参詣者を見うける

箱崎北新堀町会高尾稲荷社管理委員会
青木昭吾



安藤広重 画 東都名所 永代橋之図（1800年頃）
左、永代橋より右、豊海橋を望む（永代橋左手前に三本の幟の立つ高尾稲荷社）

はこぎき

箱崎環境対策協議会

第 5 号

中央区日本橋
箱崎町 34 の 8
電話 667-5667

頌春

☆御挨拶

平成三年の新年を迎え箱崎町の皆様、明けましてお目出とう御座います。昨年は東西ドイツの統合、ペレストロイカ、米ソの接近、中東人質問題、国内では天皇御即位、大嘗祭等一年の間にこれ程大きな出来事は、過去に於ても例が無く集中してめまぐるしい一年で有りました。当町会に於ても六月に天皇陛下の東電熱供給センター御視察で町を挙げての歓迎、一躍箱崎の地名度を上げました。又八月は四年振りの八幡様の大祭で箱崎の神輿が連合の先陣露払いの大役を見事果し立派でした。

地下鉄半蔵門線の開通と共に益々重要拠点となる箱崎地区は、近く工事を予定している地区再開発並びに読売新聞社の建設等を控える中央区役所に於てもその対応を重視して、適切な環境対策を計画される事と思えます。

箱崎環境対策協議会も当初の工事として、水天宮一ターミナル間、箱崎公園前通りの道路整備等も終つて陳情の成果が達つせられました。今年三月末完成予定の IBM 社貢献活動資金による箱崎のメイン通り、湊橋の通りが見違える様な姿になると思っています。

然しどんなにビルが沢山出来、町も奇麗になつても住民の居ない町にはたく有りません。願わくば永年住みなれた又、今後も箱崎で仕事をしたい、住みたいとこんな願いを持つた皆様と一緒に今年も助け合つて行きたいと思えます。どうぞ宜しく御願ひ申し上げます。最後に御仕事のかたわら毎回公平な立場でニュースを流していただいている編集員の御苦労に対し厚く御礼を申し上げ年頭の御挨拶と致します。

箱崎環境対策協議会

会長 宝田陽一
副会長 川田利雄
清水総一郎



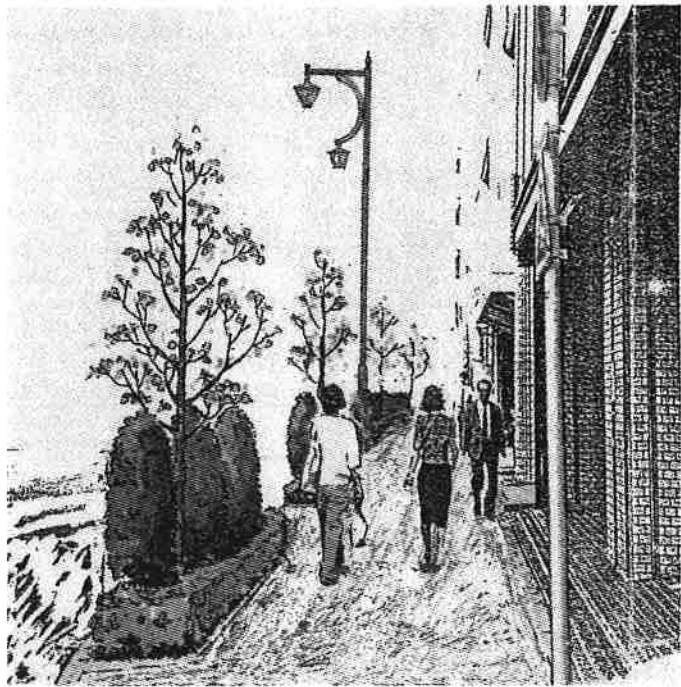
IBM社寄贈資金の活用決まる!

「はこぎき」第三号に御案内致しました、日本 IBM 株式会社様より寄贈載いた五千万円の使途について、中央区役所日本橋土木課と相談の結果、箱崎町五番地先(湊橋)より二番地旧土洲橋交差点迄の道路工事を現在行つております。

道路工事完成に合わせて御寄贈載いた額内で植栽及び街路灯の設置を行うものです。古い街路灯八基を撤去し新設灯柱十二基(二灯用)八面体の灯具が計二十四台になり箱崎の街中が又々明るい町に変身、植栽に付いては「ハナミズキ」白六十二本、「ベニカナメモチ」二百七十本、「ハマヒサカキ」二千三百本植栽されます。

今年三月には左記のイメージ図の様な街に仕上ります。

日本橋土木課では、電話、ガス及び建築工事に伴う諸工事をした後の排水溝及び車道等の凸凹を平らにし、あわせて歩道のカラー舗装を行うものです。平成二年十月一日、三年三月二十七日迄の期間中、歩行者や車の通行、家の出入り、騒音その他ご迷惑を出来るだけ少なくし、一日も早く工事の完成に努力致しますので地元の皆様への深い理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



スーパー堤防延長工事始まる!

IBM箱崎ビルの隔田川スーパー堤防に続いて隔田川大橋をはさんだ読売ビル建設予定地側でもスーパー堤防の工事が始まっている。これは現在のコンクリート堤防(カミソリ堤防と呼ばれる)の外側で台船を利用して川底にコンクリートを注入し地盤を固める工事です。緑ゆたかな広々としたスーパー堤防が出来上がると箱崎の川辺は住民にとって素晴らしい憩いの場所となるでしょう。

一方読売ビルの建設着工は建築確認が下り次第、現場事務所では三月頃と言っている。

半蔵門線全線開通!

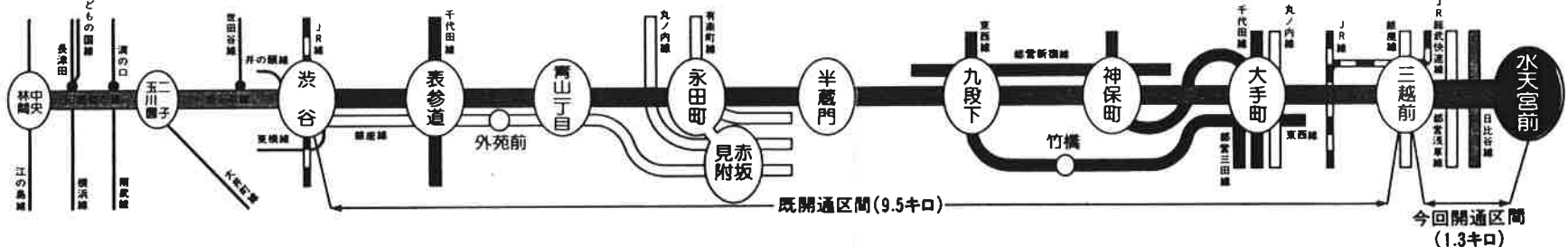
昨秋(十一月二十八日)開通した半蔵門線(三越→水天宮間)一、三キロ昭和四十八年に渋谷より工事で渋谷→水天宮間十、八キロの全線が開通した。

昨年新駅の名稱問題では、たいへんな物議を交わしたが、最終的には営団の裁量で駅名は「水天宮前」と決着した。

今回の開通により地元周辺地域への影響は大きく、特に東京シテイエアターミナルとの直結により、一段と交通の利便性が増し、神奈川県と都心部を直結する基幹的動脈として、ますます重要性が高まってきたものと期待されている。

営団では、きれいな駅、明るい、便利、水天宮前駅はこんな駅と、新駅について次のようにアピールしている。ついでかびかの新駅の特徴として、構内のデザインをあげ、列車から降りるとすぐ目に入ってくるホーム側壁に、江戸から明治にかけて、商店の軒先にかける暖簾をモチーフにデザインした五種類のシンボルマーク、扇子屋、仕立屋、二つのパージョンの鍵屋、そして鍛冶屋の商標、気を付けて見るとホームの壁は暖簾をなびかせる風のさざ波のようで、方向を変えると違う色に見えるのがポイント。エスカレーターや階段のデザインも、駅の片側がモダンな洋風で統一、もう一方は障子や扇をあしらった和風で統一されている。シテイエアターミナルを意識して、天井が飛行機の翼のようにゆるやかにカーブを描いており、改札には最新式の自動改札第一号機を設置、エアターミナルに続く道路には海外の旅行者が多く利用するため、営団地下鉄では初登場の動く歩道(ムービングウオーク)二基で、地下ホームからでもエスカレーター移動できるシステムで、エスカレーターとも違い足下の段差を気にせずスムーズにトランクを運べるのがポイント!

この地下鉄の開通には、水天宮前莫大な建設費用がかかった。三越前間だけで約三百九十億円、キロ当りの建設費は四百三十四億円といわれている。



半蔵門線は現在、水天宮前駅より西方へ渋谷を経由、新玉川線と四国都市線に直結、中央林間駅まで十二キロ、所要時間は約七十分です。

■始終発時刻表■ は到着時間を示す

始 発		終 発			
A 線	B 線	A 線		B 線	
二子玉川開発 水天宮前行	水天宮前発 中央林間行	中央林間発 水天宮前行	中央林間発 永田町行	中央林間発 青山一丁目行	水天宮前発 鷺沼行
5時16分		23時53分	24時04分	24時15分	
↑ 18'	↑ 21'	55'	↓ 06'	↓ 17'	↑ 22'
21'	↑ 18'	57'	↓ 08'		↑ 20'
23'	↑ 16'	24時00分			↑ 17'
25'	↑ 14'	02'			↑ 16'
28'	↑ 11'	04'			↑ 13'
29'	↑ 10'	06'			↑ 12'
32'	↑ 07'	09'			↑ 09'
↓ 34'	↑ 05'	↓ 10'			↑ 07'
	5時03分				24時04分

「水天宮前」

「自転車こちやこちや」

昨年十一月二十八日に開通した地下鉄水天宮前は、初日三万人の乗降客だった。

現在は、一日平均二万二千人。今後、路線延長の予定はないが、乗降客は増えるそうです。

地下鉄の出入口は、自転車がこちやこちやして、毎日に歩きにくくなってきた。

特に、箱崎郵便局の前、水天宮の公園側と証券会社側がめだちます。今後、どうしたら良いか考えていきたいと思えます。

「忘れ物の問い合わせ」の電話は、(三二四九)六二二六 です。

「日本橋高校、改築終わる」

日本橋高校は昨年、校舎改築中でしたが、生徒は他の学校にて勉強しています。

やつと改築工事も終わり、一月十七日に戻ってきます。

冷暖房の施設も、立派なものが出来、明るい校舎になりました。

まわりの住宅には、大分迷惑をかけたものと思えます。

又、生徒が戻ってくると賑やかに なります。